

「京都の環境地圏科学」(全学部生対象授業)で 京都東山を流れる白川の流域において野外実習を行いました。

2015年9月30日



集合写真



まず、溪流の最下流部で水質(pHとEC)を計測します。上流に向かってどのように変化していくのでしょうか。谷頭の湧水点を目指して、25m間隔ごとに計っていきます。



100mくらい上流に来ました。



さらに100m。徐々に、山奥の溪流らしくなってきました。このあたりはECが急減する地点。なぜそうなるの？





さらに100m。いっそう山奥らしくなってきました。



そのうえ100m。河床堆積物が無くなって、岩盤河床に！上流に向かって下がり続けていたECが、逆に上がり始めます。なぜ？文化が水質を作る？

河床に見られる花崗岩(下側)と堆積岩(上側)の境界。それとも、この堆積岩は捕獲岩？

最上流部では、河床堆積物を削って深いガリーができていました。土石流の素だよね。

環境や防災に関する基礎学習のモチベーション維持のためには、講義形式の授業ばかりではなく、実体験に基づく野外実習がより効果的だと、我々の研究グループは考えています。